を以て日共が大多数を占める事実　一方川村に
於ても
（日本労働組合総同盟　一九、官業労働組合同
盟、八、　合計二十七票
を得るの見込なく到底勝し能はざる情勢
となるので紛糾となつて四組合側の投票を棄
権せし事に帰するのである

三、日本海員組合脱退の経緯
日本海員組合は一旦日共を排撃する事を表明し
本年十二日脱退をいよいよ発表して總評内は労
働は表面上擁護せる鈴木氏と一体する事になつて

表面の理由